

第3章 魚津市の教育の現状と課題

1. 学校教育の現状と課題

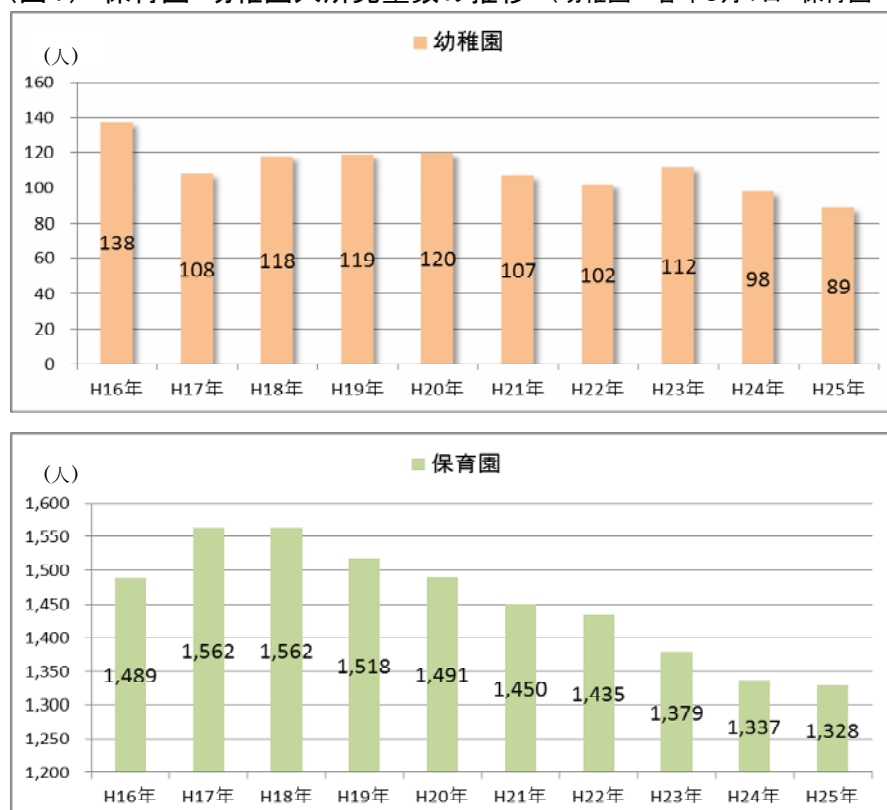
(1) 学校教育

① 幼児教育

【現状】

- 女性の就労が進んでいるなか、安心して子どもを預けることのできる場所の充実が一層重要となっています。また、核家族化や地域とのつながりの希薄化に伴い、地域での子ども集団が形成されにくくなっており、子育てに悩む保護者や身近に相談できる場所がない保護者が増加しています。このような状況において、保育園・幼稚園の果たす役割はますます重要なものとなっています。
- 幼児期は集団との関わりから自立心や人とのかかわる力を培い、多くの友達と接することによって互いに影響を与え合い、切磋琢磨して伸び始める時期です。小規模な園では、家庭的で細やかな保育や教育ができる反面、友達が固定しやすく、交友関係や遊びに広がりや深まりが観られない等の問題点が指摘されています。
- 出生率の低下や子育て世代の転出の増加などを背景に、少子化が進行しており、保育園・幼稚園入所児数は年々減少しています。現在、市内には、公立幼稚園が1園、私立幼稚園が1園、公立保育園が8園、私立保育園が8園設置されていますが、入所児数の減少に伴い平成28年度末に明星幼稚園の閉園が予定されています。

(図1) 保育園・幼稚園入所児童数の推移 (幼稚園…各年5月1日 保育園…各年4月1日)



こども課集計

【課題】

- 幼児教育を充実させるため、子どもにとって望ましい集団活動を実践できる保育・教育環境を整備することが必要です。平成25年11月に実施した子ども・子育てアンケートによると、保育園、幼稚園整備の望ましい進め方について、「認定こども園を整備していくことが望ましい」と回答している割合が43.9%と最も高くなっており、身近な場所で保護者の就労形態に関わらず選択することができる「認定こども園」の設置が望まれています。
- また、特色ある幼児教育の実施や預かり保育の充実、家庭教育支援など、子ども一人ひとりの成長と保護者ニーズに応じた適切な支援を行うことが必要です。



大町幼稚園



朝のなかよしタイム（マラソン）

② 学習状況

【現状】

- 平成26年度全国学力・学習状況調査の結果より、市内の小中学校の平均正答率は国語、算数・数学について全国平均をほぼ上回っています。B問題の「活用に関する問題」については、国語、算数・数学とも課題が見られます。

「国語、算数・数学の授業の内容がよく分かる」と答えた児童生徒は、中学生の数学以外は全国や県平均を下回っています。

「平日の学習時間が1時間以上」と答えた児童生徒は、小学生は64.2%で全国や県平均を上回っていますが、中学生は54.2%で全国や県平均を下回っています。

「平日の読書時間が30分以上」と答えた児童生徒は、小学生は41.9%で全国や県平均を上回っていますが、中学生は27.7%で全国や県平均を下回っています。

- 「授業に真剣に取り組んでいると思う」と答えた児童生徒は、小中学生とも90%以上います。

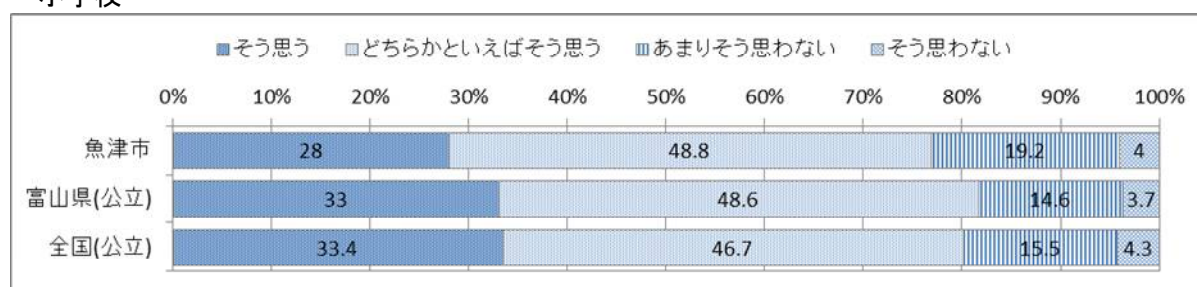
【課題】

- 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図り、自ら課題を見付け、課題を解決する能力を身に付けることが必要です。
- 児童生徒の学習意欲を高め、授業改善に努めることが必要です。
- 学校と家庭が連携し、家庭学習の習慣化が必要です。

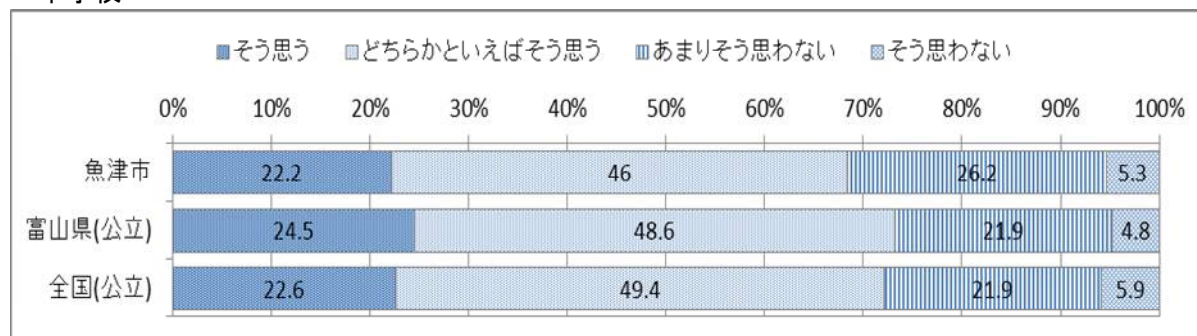


算数科の授業

(図2) 国語の授業の内容はよく分かりますか
小学校



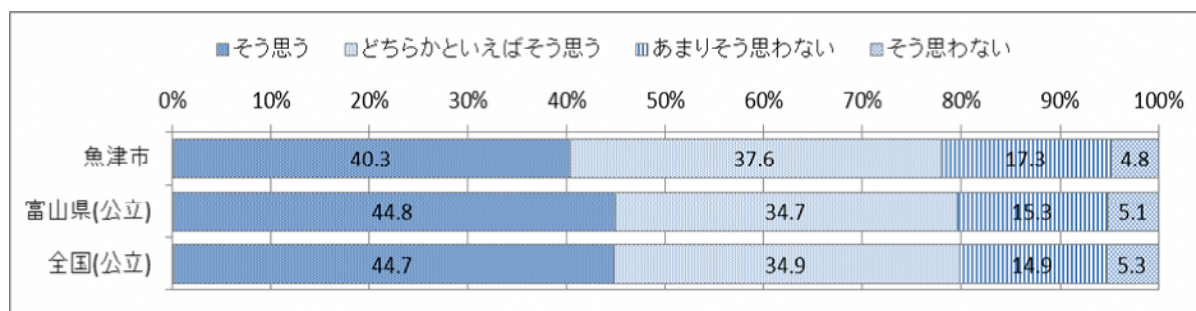
中学校



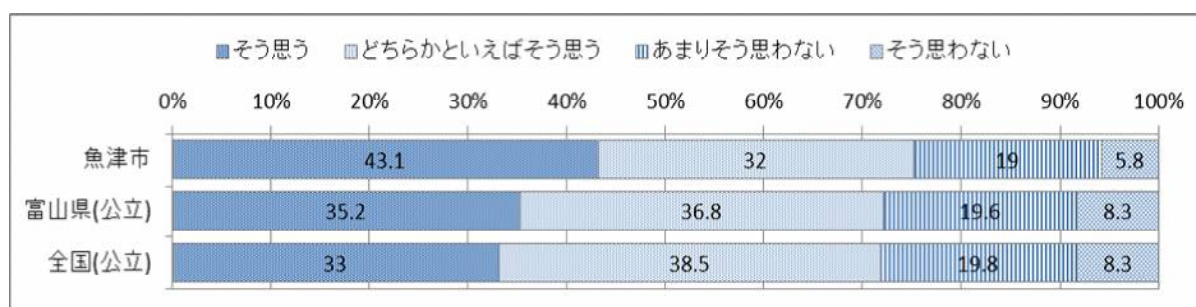
H26 全国学力・学習状況調査

(図3) 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。

小学校



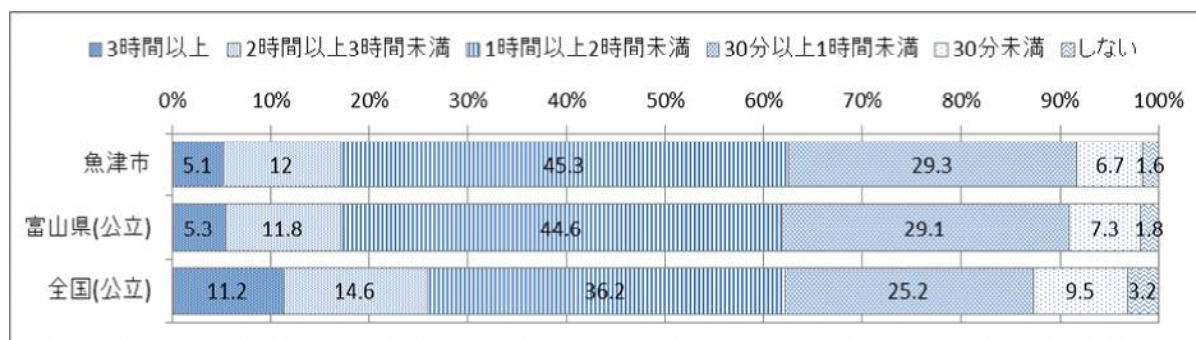
中学校



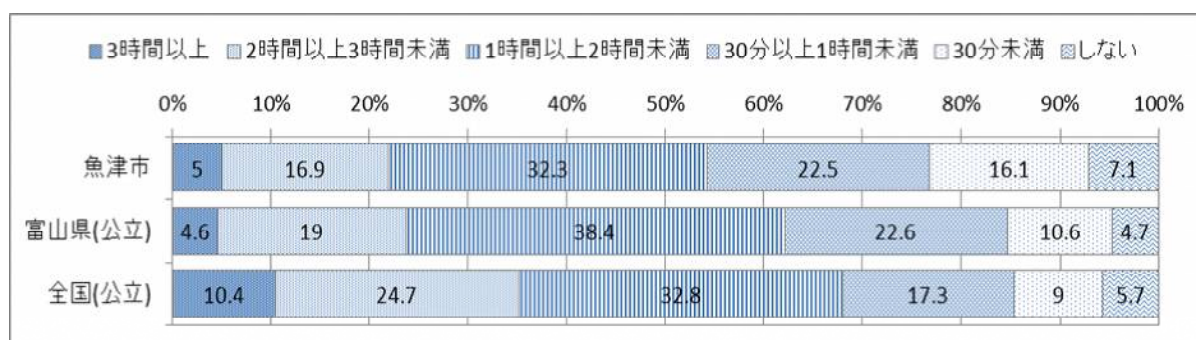
H26 全国学力・学習状況調査

(図4) 授業時間以外に、平日1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。

小学校



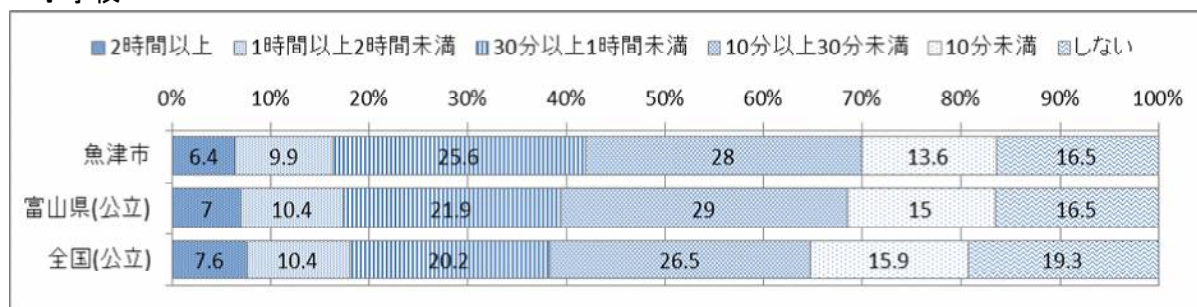
中学校



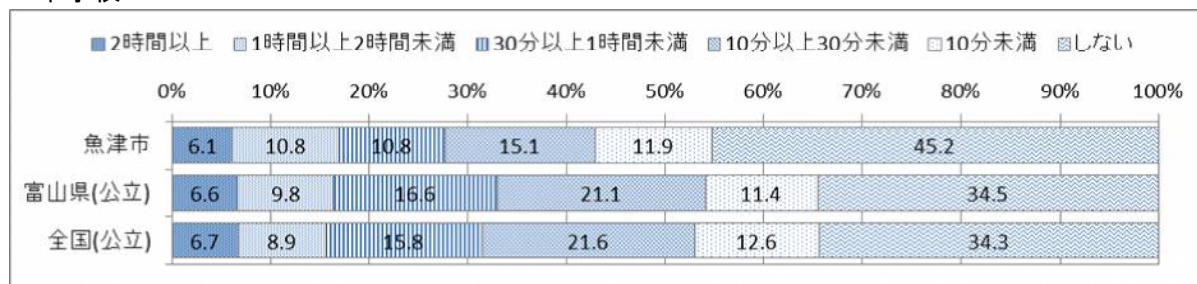
H26 全国学力・学習状況調査

(図5) 平日1日当たりどれくらいの時間、読書しますか。

小学校

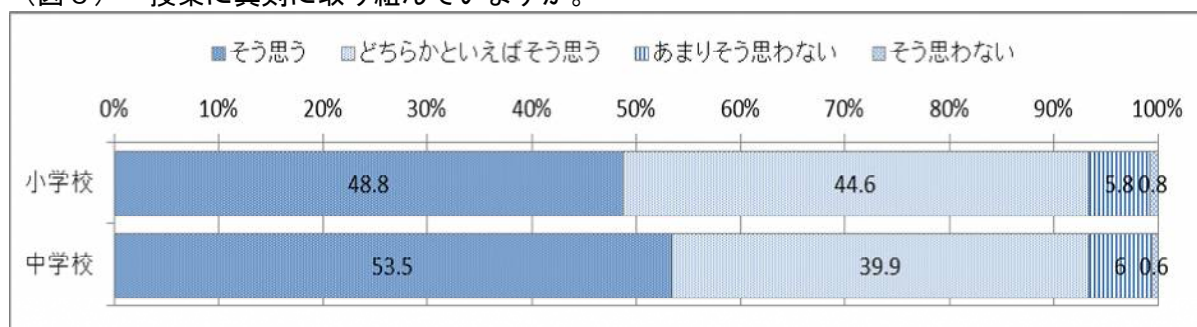


中学校



H26 市内小中学校調査

(図6) 授業に真剣に取り組んでいますか。



H26 市内小中学校調査



小学校の外国語活動



理科の授業

③ 心の教育

【現状】

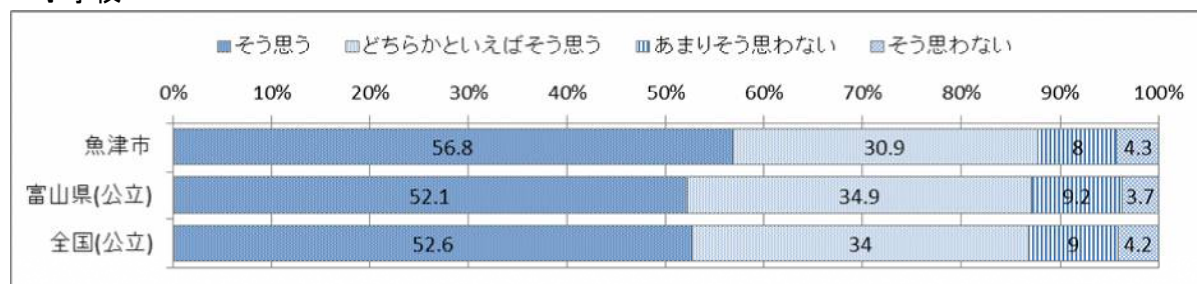
- 平成26年度全国学力・学習状況調査の結果より、「学校が楽しい」と答えた児童生徒は、小学生は87.7%で全国や県平均を上回っていますが、中学生は80.2%で全国や県平均を下回っています。「人の気持ちが分かる人間になりたい」と答えた児童生徒は、小学生は93.6%で全国や県平均を下回っていますが、中学生は97.6%で全国や県平均を上回っています。
- いじめ認知数は、小学校では0.27%と減少傾向にありますが、中学校では1.19%とやや増加しています。
- 不登校出現率は小学校は0.41%とやや増加傾向にありますが、中学校は1.95%と減少傾向にあり全国や県の割合を下回っています。

【課題】

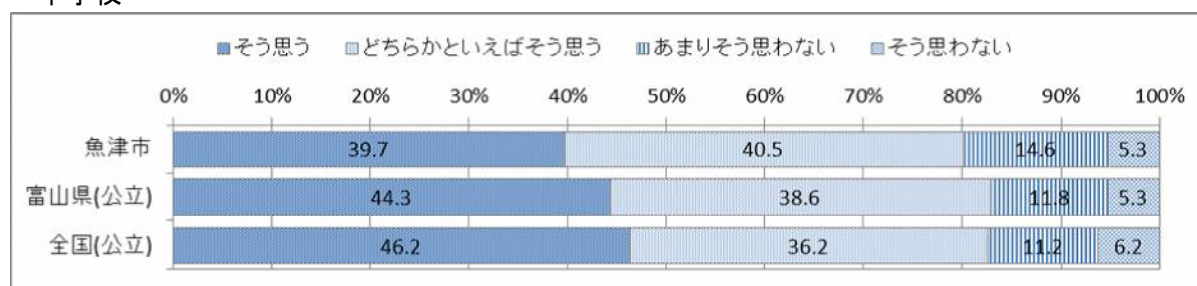
- 生命を大切にし人権を尊重するとともに、豊かな心を育てる教育活動の充実が必要です。
- 不登校等の児童生徒には、学校や家庭、関係機関と連携・協力しながら、きめ細かな支援が必要です。

(図7) 学校に行くのは楽しいと思いますか。

小学校



中学校



H26 全国学力・学習状況調査



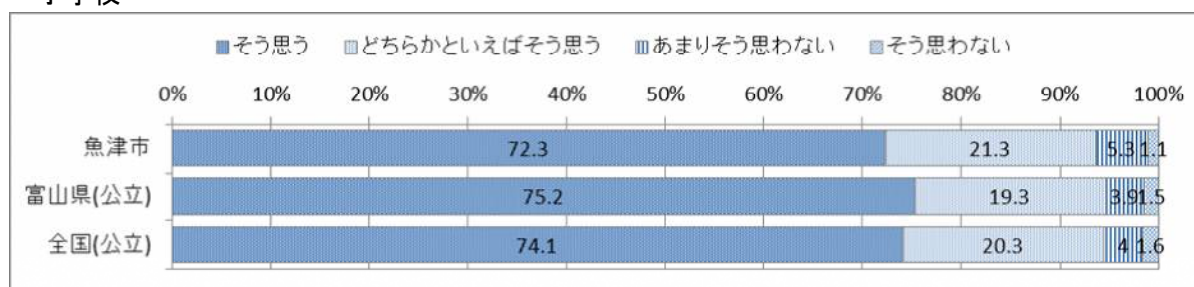
いのちの授業「赤ちゃんともふれあい」



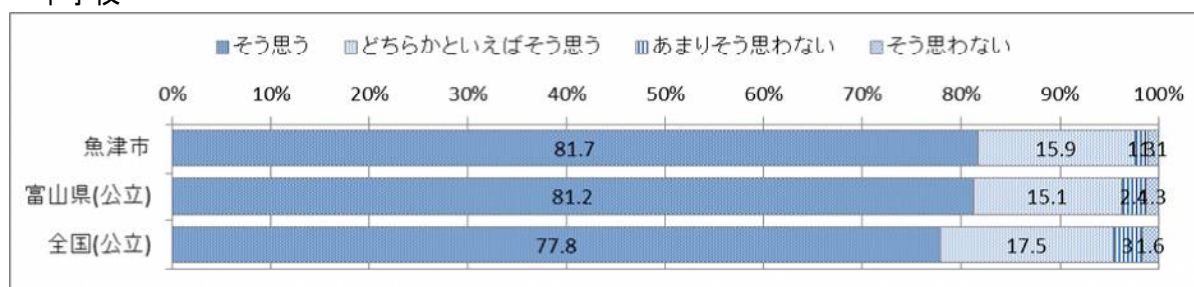
読書活動「図書館司書による読み聞かせ」

(図 8) 人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか。

小学校



中学校



H26 全国学力・学習状況調査

(表 1) いじめの認知数の在籍比

区 分	小学校				中学校			
	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
魚津市	23 人	15 人	6 人	人	5 人	10 人	14 人	人
	0.85%	0.65%	0.27%	%	0.42%	0.86%	1.19%	%
富山県	0.53%	0.32%	0.57%	%	0.89%	1.98%	1.03%	%
全 国	0.48%	1.75%	1.80%	%	0.90%	1.86%	1.64%	%

(表 2) 不登校の出現率

区 分	小学校				中学校			
	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
魚津市	7 人	7 人	11 人	人	19 人	23 人	22 人	人
	0.47%	0.30%	0.41%	%	2.48%	1.97%	1.95%	%
富山県	0.34%	0.34%	0.34%	%	2.14%	2.01%	2.17%	%
全 国	0.33%	0.32%	0.37%	%	2.78%	2.69%	2.81%	%

H26 全国学力・学習状況調査



人権集会「学級の取り組み発表」

④ 生活習慣

【現状】

- 全国学力・学習状況調査の結果より、「朝食を毎日食べている」と答えた児童生徒は90%前後います。また、ほとんど食べていると答えた児童生徒を合わせると98%を越えて全国や県平均を上回っています。

1日1時間以上ゲームをしている割合は、小中学生とも全国や県平均を下回っていますが、半数以上の児童生徒が「している」と答えています。

- 「規則正しい生活を送っていると思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた保護者は、小学校では86%、中学校では84%でほぼ基本的生活習慣が身に付いています。
- 「インターネットができる携帯電話やスマホ、ゲーム機等を持っている」と答えた小学生は約70%、中学生は約80%います。また、「持っていることで困ったことがある」と答えた小学生は2%、中学生は約8%います。

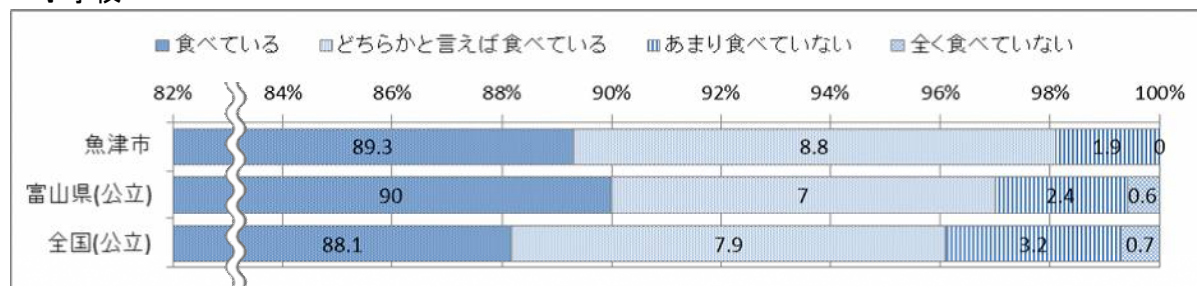
【課題】

- 学校と家庭の協力・連携を図り、「早ね、早起き、朝ごはん」など、基本的生活習慣の定着が必要です。
- 児童生徒の健やかな成長を支えるために望ましい食習慣の定着が必要です。
- 携帯電話やインターネット等の正しい管理や情報モラルの指導が必要です。

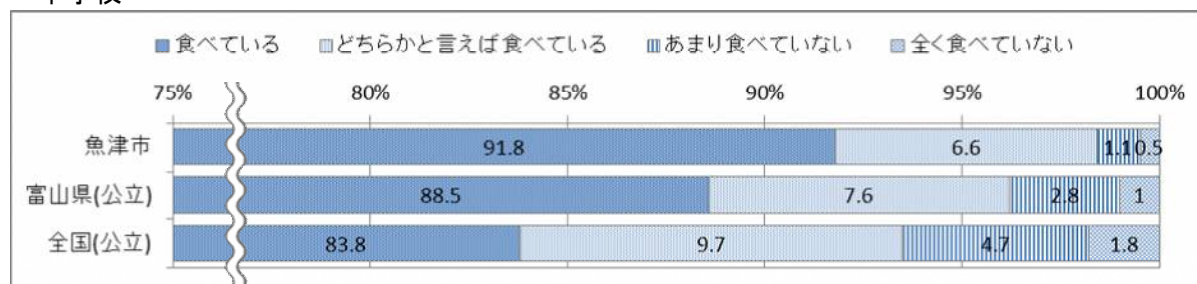


講演会「スマホに潜む危険性」

(図9) 朝食を毎日食べていますか
小学校

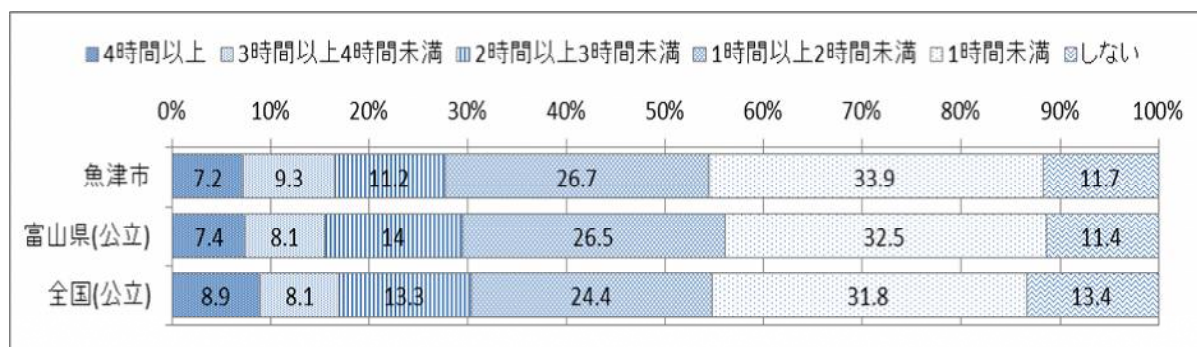


中学校

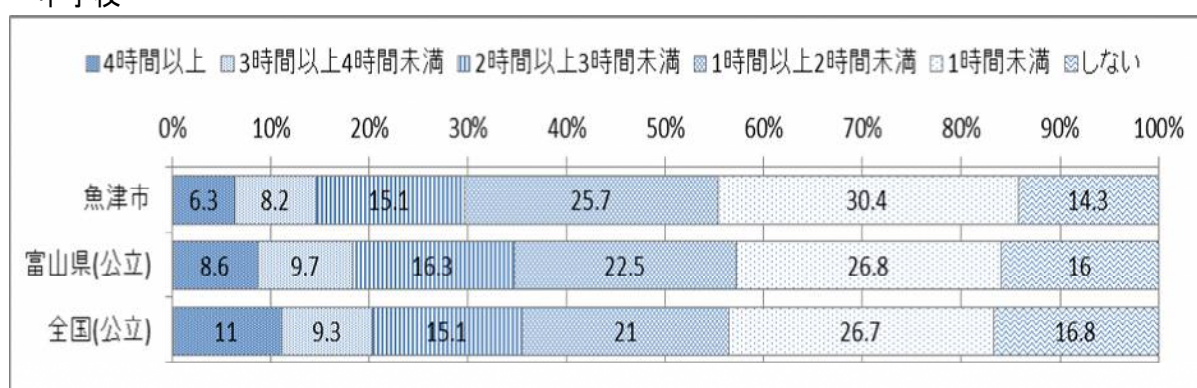


H26 全国学力・学習状況調査

(図 10) 平日 1 日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。
小学校

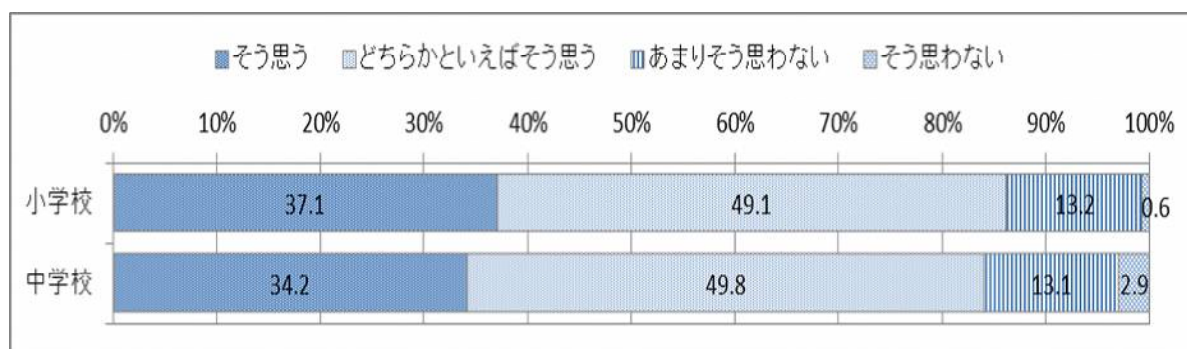


中学校



H26 全国学力・学習状況調査

(図 1 1) お子様は毎日規則正しい生活を送っていますか。



H26 市内小中学校調査調査

(表 3) インターネットができる携帯電話やスマートフォン、ゲーム機等を持っている。

	持っている	持っていない
小学生	69.5%	30.5%
中学生	78.5%	21.5%

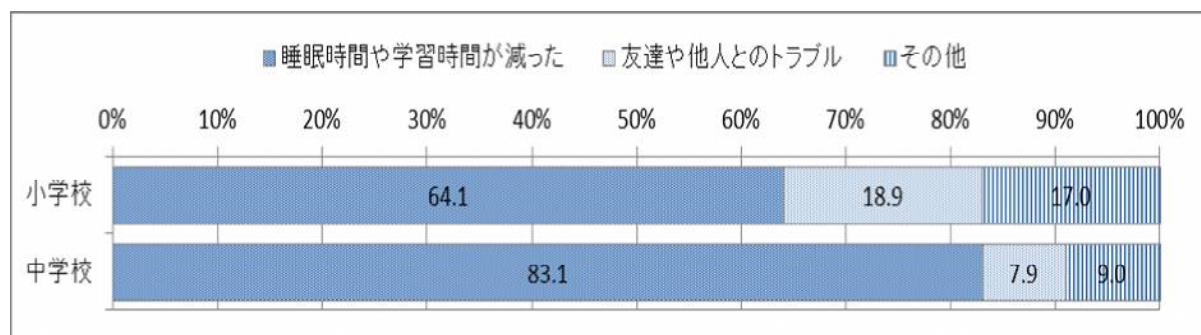
H26 市内小中学校調査

(表 4) 持っていて困ったことはありますか。

	ある	ない
小学生	2.0%	98.0%
中学生	7.5%	92.5%

H26 市内小中学校調査

(図 1 2) 困ったことはどんなことですか。



H26 市内小中学校調査



食育「魚津でとれたウマズラハギの調理教室」



地場食材を活用した給食会

⑤ 特別支援教育

【現状】

- 市内の14小中学校において、特別支援学級の開設は20学級で、在籍する児童生徒数はここ数年約45名で推移しています。
- 通常学級における特別な支援が必要な児童生徒数の割合は約6.4%で、全国平均とほぼ同じ値になっています。児童生徒一人一人に応じたきめ細かな指導を行うため、通級指導教室の充実と特別支援スタディーメイトの配置を行っています。
- 園や学校、関係機関の連携を密にするとともに、保護者との相談や教育支援委員会の判断を基に一人一人の障害の程度や発達の状態に合わせて就学支援を行っています。

【課題】

- 児童生徒一人一人の実態に応じた、きめ細かな指導と支援が必要です。
- 学校全体での支援や地域・保護者への特別支援教育に対する理解と啓発が必要です。
- 特別な支援を要する児童生徒への支援の在り方について、教職員研修の充実が必要です。

(表5) 魚津市の特別支援学級設置状況

※ () 内の数は児童生徒数

区 分	平成 24 年度			平成 25 年度			平成 26 年度		
	小学校	中学校	計	小学校	中学校	計	小学校	中学校	計
特 別 支 援 学 級 数	17 (35)	4 (12)	21 (47)	16 (32)	4 (16)	20 (48)	16 (35)	4 (13)	20 (45)
通級指導数	16 (74)		16 (74)	16 (77)	2 (17)	18 (94)	10 (67)	2 (15)	12 (82)

H26 市内小中学校調査

(表6) 通常学級における発達障害のあるまたは疑いのある要支援児童数と特別支援スタディーメイト数 (単位: 人)

区 分		平成 24 年度			平成 25 年度			平成 26 年度		
		小学校	中学校	計	小学校	中学校	計	小学校	中学校	計
要支援児童生徒数		164	27	191	189	26	215	182	33	215
特別支援スタッフ数		12	0	12	12	0	12	11	1	12
特別な支援を要する児童生徒の割合	魚津市	7.1%	2.3%	5.5%	8.5%	2.2%	6.3%	8.4%	2.7%	6.4%
	全国	7.7%	4.0%	6.5%	10 年間隔で調査を行う					

H26 市内小中学校調査

(表7) 特別支援学校へ通学している市内の児童生徒数 (平成26年度)

区 分	小学部	中学部	計
魚津市	12 人	16 人	28 人

⑥ 体力・運動能力

【現状】

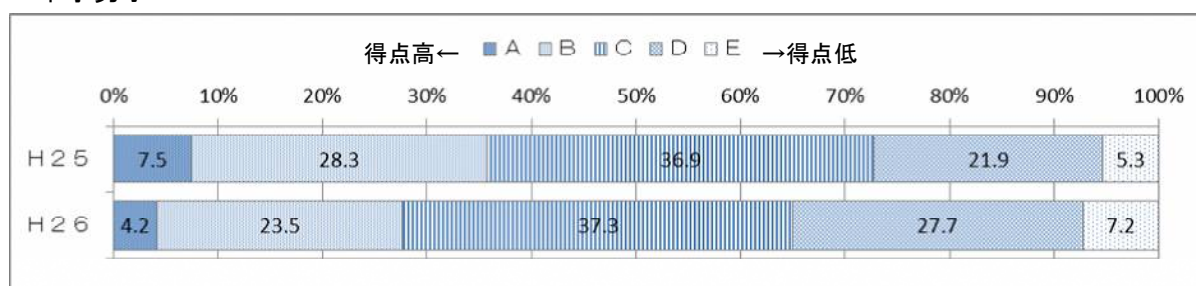
- 平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査によると魚津市の小学校第5学年児童の93%、中学校第2学年生徒の86%が「運動が好き」もしくは「やや好き」と答えています。また、ほぼ同じ割合の児童・生徒が「体育（保健体育）の授業は楽しい」もしくは「やや楽しい」と答えており、体を動かすことに肯定的な児童・生徒が多く見られます。
- しかしながら、調査における体力テスト合計得点の平均点に注目すると、中学生男女で全国平均及び県平均を下回っています。また、総合評価において平成26年度調査と平成25年度調査を比べると、平均を上回るA、B段階の生徒の割合が減り、平均を下回るD、E段階の生徒の割合が増えています。
- 1週間の総運動時間（学校での体育授業時間を除く）に注目すると、魚津市においては1週間の総運動時間が0分の児童・生徒が見られます。児童では全体の1～2%ですが、特に中学校女子においては全体の9%と多くなっています。

※全国体力・運動能力、運動習慣等調査

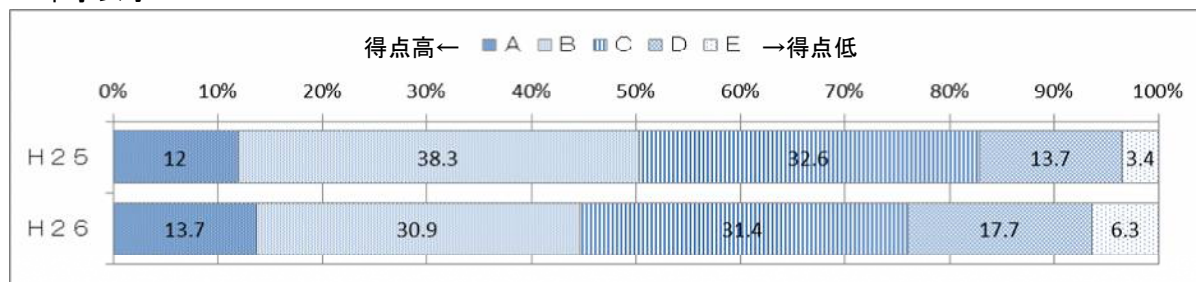
文部科学省が小学校第5学年・中学校第2学年を対象に行っている調査です。小学校調査、中学校調査とも8種目の体力テストを実施し、それぞれの記録を項目別得点表により採点します。各項目の得点を合計し総合評価として、A～Eの5段階で評価します。

（図13） 中学男女総合評価

中学男子

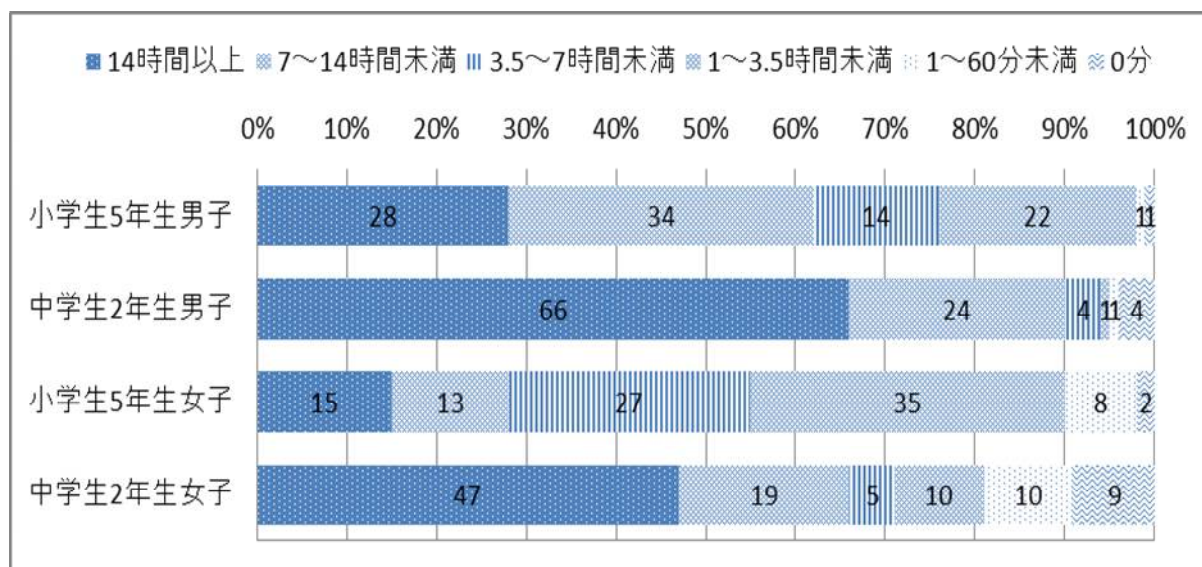


中学女子



全国体力・運動能力、運動習慣等調査

(図 1 4) 1 週間の総運動時間



全国体力・運動能力、運動習慣等調査

【課題】

- 体を動かすことに肯定的な児童・生徒が多くみられる反面、運動時間が少ない児童・生徒もみられます。運動時間の少ない児童・生徒には、学校教育の様々な場面において体を動かすことが苦にならない運動の機会を確保しなければなりません。より多くの児童・生徒が、自ら進んで運動やスポーツの実施、体力の向上に努められるように、学校はもとより行政、家庭、地域、関係機関が連携して取り組んでいくことが必要です。
- 中でも、中学生の体力向上が課題となっています。改善するためには、体育授業だけでなく学校全体の課題として取り組んでいくことが必要です。



市民スキー教室



チャレンジデーで全校鬼ごっこ

⑦ 家庭と地域

【現状】

- 全国学力・学習状況調査の結果から、「地域の行事に参加している」「どちらかといえばしている」と答えた小学生は70%弱、中学生では50%弱となっており、どちらも全国平均を上回っているものの県平均を下回っています。
- 「授業参観や学校行事に参加するようにしている」「どちらかといえばしている」と答えた保護者は、小学校では69.6%、中学校では34.1%となっており、小学校では積極的に参加するものの中学校では関心が低くなっています。
- 「学校の教育方針や児童生徒の学校での様子が分かる」「どちらかといえば分かる」と答えた保護者は、小学校では90%、中学校では80%となっており、おおむね様子が分かっています。
- 市は学校週五日制のモデル地域として、学校、家庭、地域社会の役割を明確にし、社会体験や自然体験等の様々な体験活動の機会を児童生徒に提供して、自ら学び考える力や豊かな人間性等の「生きる力」を育んでいます。

【課題】

- 学校や家庭、地域が連携・協力して児童生徒を育てるという意識の啓発が必要です。
- 開かれた学校を目指し、学校の教育活動の様子を家庭や地域に積極的に発信・公開することが必要です。
- 家庭や地域の教育力を活かすとともに、保護者や地域の方が教育に積極的に参画できる取組が必要です。
- 自然や歴史、文化、先人の業績や志などに対する理解を深め、郷土への誇りと愛着、感謝の心を育むことが必要です。

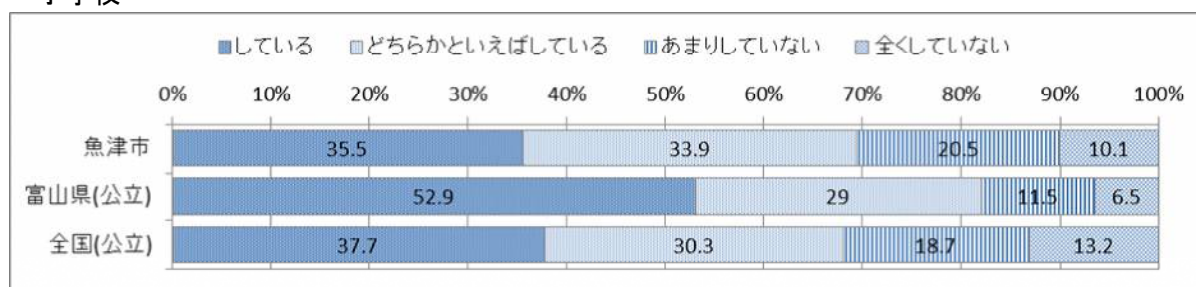


地域のひとと農業体験

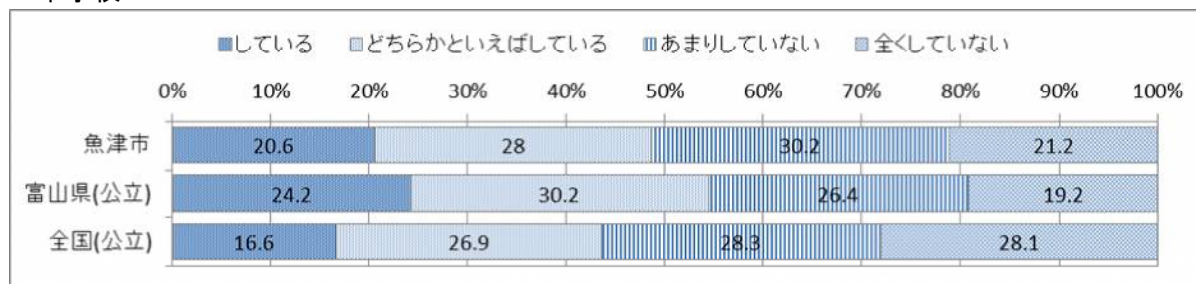


授業参観

(図 1 5) 地域の行事に参加していますか。
小学校

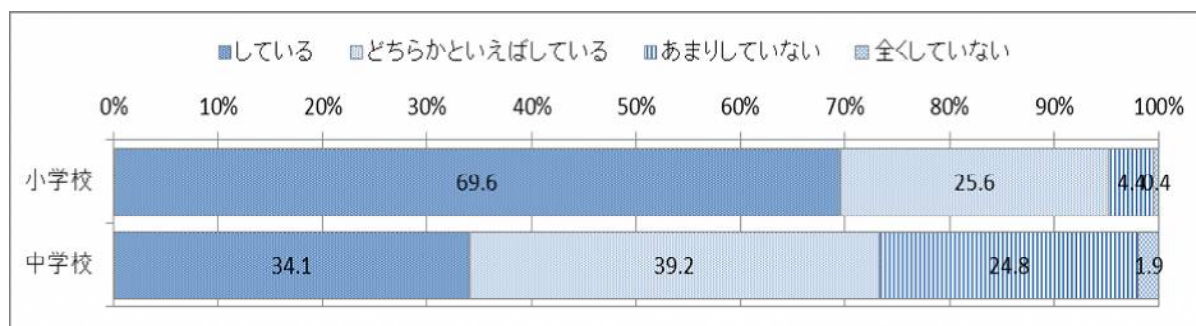


中学校



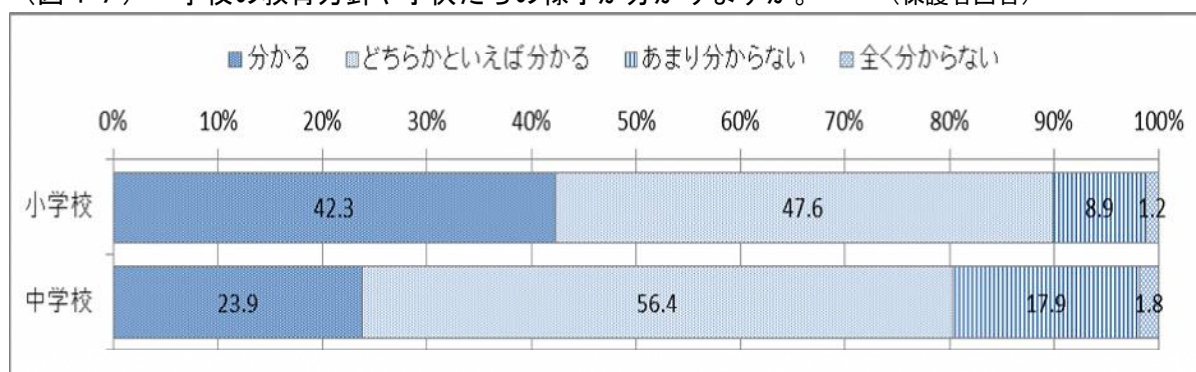
H26 全国学力・学習状況調査

(図 1 6) 授業参観や学校行事に参加するようにしていますか。 (保護者回答)



H26 市内小中学校調査調査

(図 1 7) 学校の教育方針や子供たちの様子が分かりますか。 (保護者回答)



H26 市内小中学校調査調査

（２）学校教育環境の整備

① 学校施設・整備

【課題】

- 平成２２年度より市内の小中学校の耐震化を進めており、平成２６年度末の耐震化率は９５．２％となっています。また、吊天井や外壁といった非構造部材の耐震化についても平成２６年度より調査、設計に着手しています。
- 魚津市では、昭和５０年代までに建設された学校が多く、約６割が築３０年を経過しており、老朽化が著しくなっています。
- 魚津市の教育用コンピュータ１台当たりの児童生徒数は、５．８人／台であり、富山県平均（５．７人／台）と、ほぼ同程度となっています。また、教員の校務用コンピュータ整備率は１０８．７％と全ての教員にコンピュータが配備されており、普通教室の校内 LAN 整備率も１００％となっています。
- 地球温暖化に伴う近年の猛暑に対処するため、全国的に普通教室への冷房設備の設置が進められています。平成２６年度には、市内中学校の普通教室に冷房設備を設置しました。

【課題】

- 施設の老朽化対策に加え、教育内容・教育方法の進展、世帯の生活様式の多様化に合わせて、高機能かつ多様な学習環境を整えていくことが必要となっており、環境への配慮、防犯対策、バリアフリー化、温暖化に伴う普通教室へのエアコンの整備、トイレの洋式化など様々な課題に着実に対応していく必要があります。
- 学習に対する児童生徒の興味・関心を高めるとされる、ＩＣＴ（情報通信技術）を活用した教育を進めるため、対応した機器を整備する必要があります。



学校の耐震補強状況（東部中学校）



電子黒板を使って学習

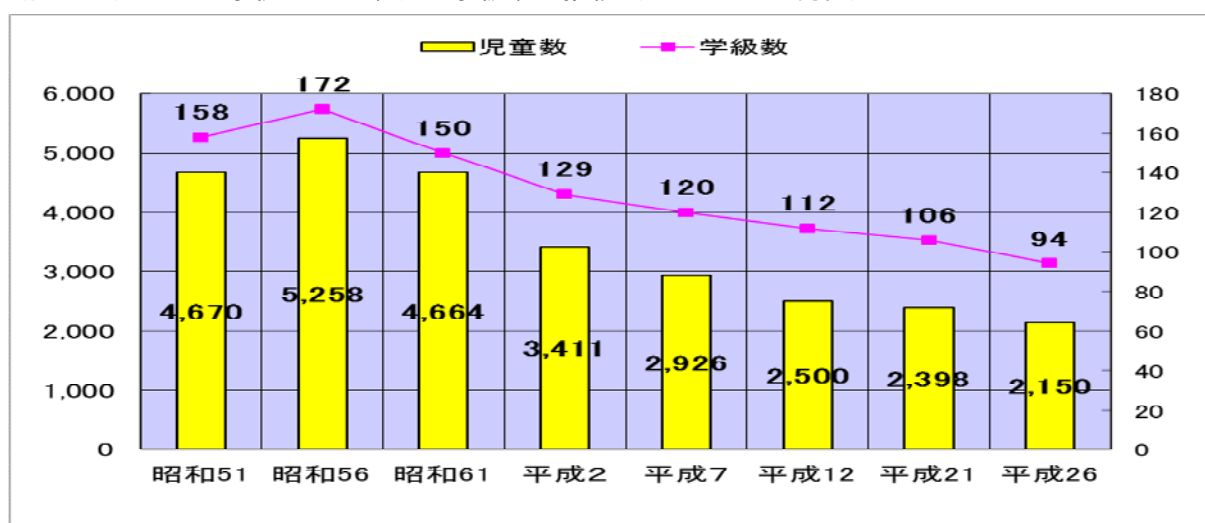
② 学校規模適正化

【現状】

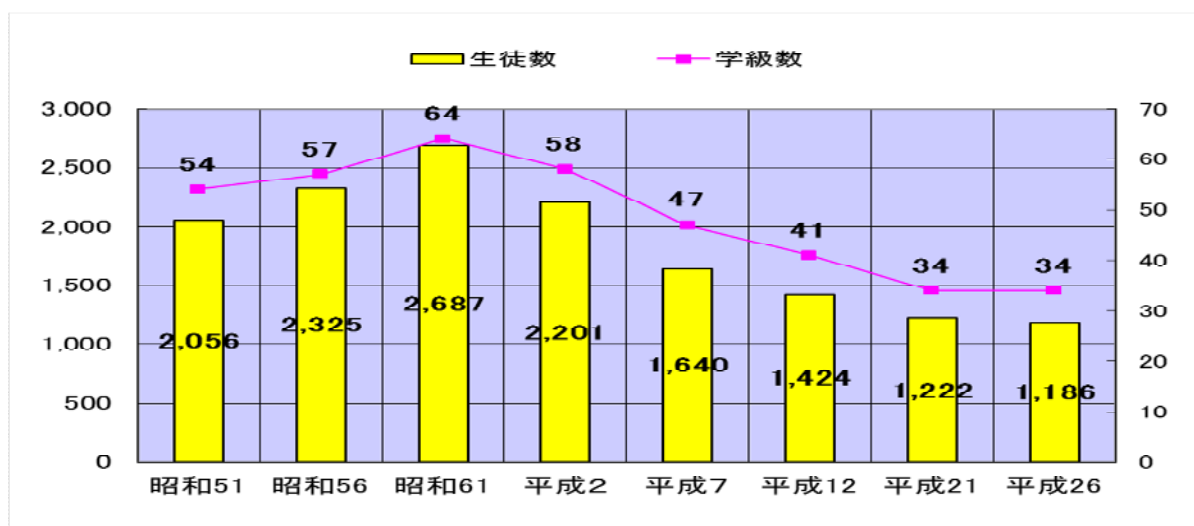
- 急激な少子化に伴い、魚津市内の児童・生徒数は大きく減少しています。文部科学省が定める適正な学校規模は、小中学校ともに1校あたり12～18学級としています。小学校において、今後の児童数を現在の住民登録をもとに予測すると、平成32年度には現在市内12ある小学校のうち、4校で複式学級が発生する過小規模校となる見込みです。対して、中学校も同様に、生徒数・学級数ともに大きく減少していますが、ピーク時は過大規模校でしたが、生徒数の減少により適正規模になったといえます。

こうしたことから、魚津市教育委員会では、小学校の規模適正化を喫緊の課題ととらえ、平成26年3月に、市内12ある小学校を4つに統合する「魚津市学校規模適正化推進計画」を策定し、計画を進めています。

(図18) 小学校の児童数及び学級数の推移 (※H27.2.1現在)



(図19) 中学校の生徒数と学級数の推移 (※H27.2.1現在)



【課題】

- 学校の統合にあたっては、小規模校の児童に十分配慮しなければなりません。また、これまで地域が小学校と連携して行っている各種行事や事業が統合によって衰退しないよう、地区の皆さんと十分に協議しながら計画を進める必要があります。

学校規模適正化推進計画における小学校統合の枠組みと目標年度（※H27.2.1現在）

